

大規模災害への備えについて

○南海トラフ巨大地震被害想定（最大値）

	国公表		県公表（参考）
公表時期	H 2 4	R 7	R 2
死者数 （早期避難率）	約 4. 2 万人 （2 0 %）	約 3. 9 万人（※） （2 0 %）	約 1. 5 万人 （5 5. 5 %）
負傷者数	約 2. 3 万人	約 3. 2 万人	約 2. 0 万人
全壊・焼失棟数	約 8. 3 万棟	約 8. 3 万棟	約 8. 0 万棟

※本県の死者数が最大となる算定条件

- ・九州地方が大きく被災する地震・津波が発生した場合
- ・冬・深夜、風速強（8m/s）、早期避難率低（20%）

地震や津波のモデル、発災時期、気象条件、避難率などを変えながら、様々な条件下での人的被害を算定（全96パターン）



○県の被害想定について

- ・県民意識調査の結果に基づき、早期避難率を設定
- ・国の想定にない地震・津波モデル（日向灘を中心に広範囲に地震・津波が起きるケース）も考慮

【被害想定更新までのスケジュール】

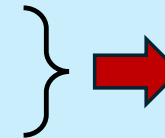
令和 6 年度

津波避難等に関する県民意識調査

津波浸水想定更新

令和 7 年度

地震動想定更新



被害想定更新
（人的被害、建物被害など）

大規模災害から命を守る「3つの行動」

耐震化

1

家の耐震化と 家具の転倒・ 落下防止を！



家具の転倒防止



『L字金具』や『ベルト式器具』、
『突っ張り棒』などで
壁や天井と固定させましょう。

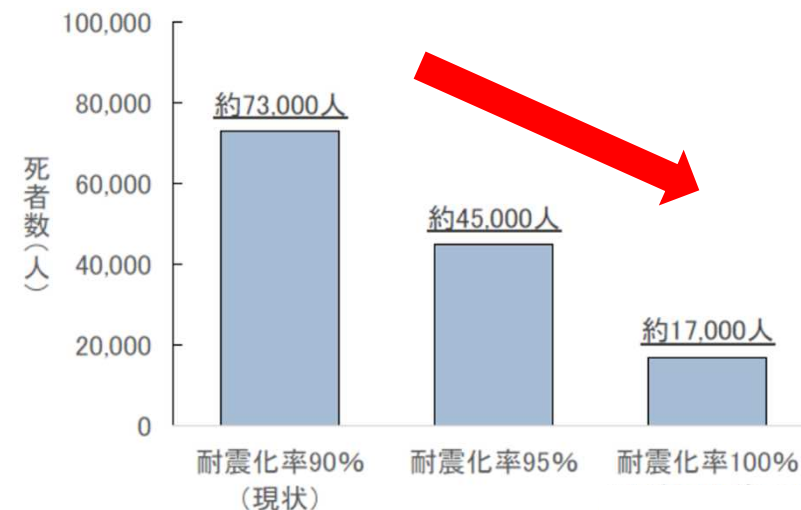
家具配置の工夫



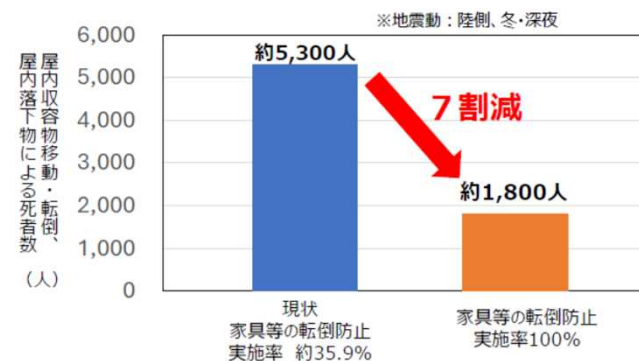
家具が倒れた時に
出入り口をふさいだりしないよう、
家具の向きや配置を工夫しましょう。

耐震化・家具の転倒防止対策を
とることで、死者数は大きく減少

○建物倒壊による死者数（全国）



○家具の転倒による死者数（全国）



※いずれも
国公表資料より

大規模災害から命を守る「3つの行動」

早期避難

2

危険を感じたら
安全な場所へ
早めの避難を！



警戒レベルを確認
早めの避難



災害発生の危険性が高まるにつれて、
防災気象情報（気象庁）や避難情報
（市町村）が発表・発令されます。

避難場所や
避難経路の確認

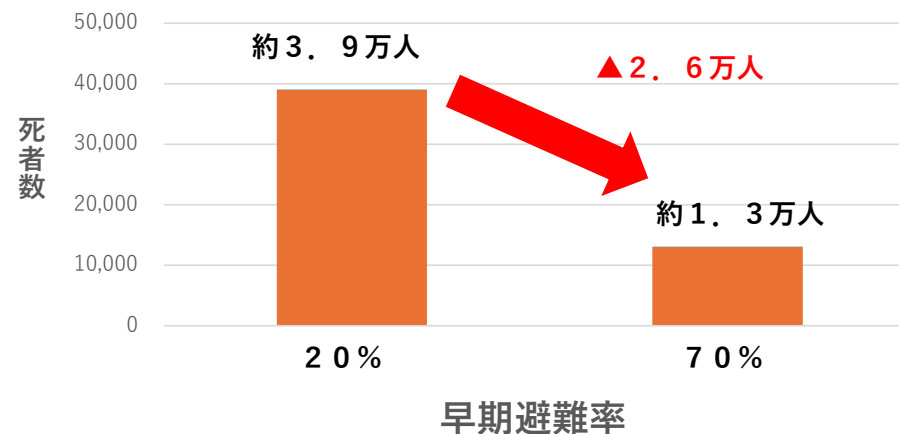


いざというとき、安全に避難行動が
できるように、避難場所はどこか、
安全な避難経路はどこかなどを、
ハザードマップなどで確認しておきましょう。

早期避難率が高い場合は、
死者数は大きく減少

○被害想定

本県における死者数（最大）



大規模災害から命を守る「3つの行動」

備蓄

3

災害後1週間は
備蓄で乗り切る
準備を！



まず必要なのは
水と食料



最低3日分（できれば1週間分）の
水と食料を備えておきましょう。

家庭状況によって
必要な物は変わる



乳幼児がいる、寝たきりの高齢者
などの要介護者がいるなど
各家庭の事情に応じた備えが必要です。

大事なことは・・・

日頃からの事前の備えと災害が起きた時の行動